

精選

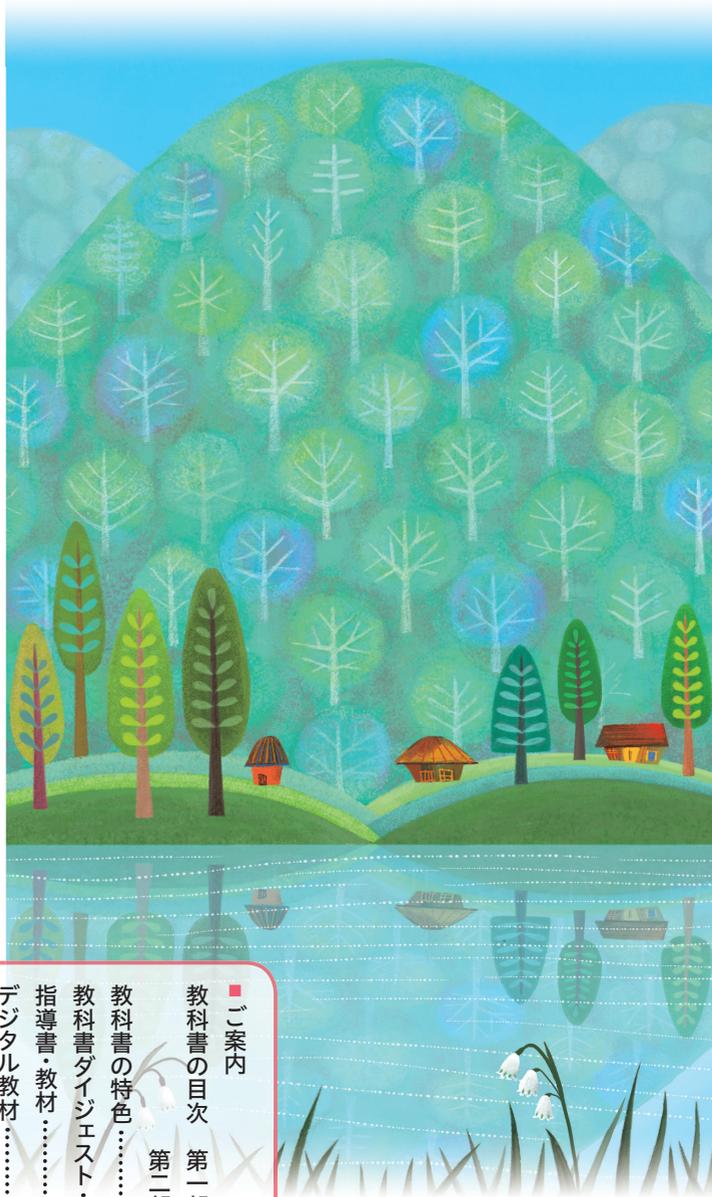
現代文B

改訂版

A5判・408ページ

評論 24 教材
随想 2 教材
小説 9 教材
詩歌 8 教材

目次	1
第一部	2
教科書の目次	4
教科書の特徴	6
指導書・教材	30
デジタル教材	32



三省堂

三省堂版 国語教科書

★印は平成29年度新刊, ☆印は平成30年度新刊です。

<p>★ 国語総合</p> <p>高等学校国語総合 現代文編「改訂版」 A5判/280ページ 国総 336</p>	<p>★ 国語総合</p> <p>高等学校国語総合 古典編「改訂版」 A5判/192ページ 国総 337</p>	<p>★ 国語総合</p> <p>精選国語総合 「改訂版」 A5判/400ページ 国総 338</p>	<p>★ 国語総合</p> <p>明解国語総合 「改訂版」 A5判/360ページ 国総 339</p>
<p>☆ 現代文B</p> <p>高等学校現代文B 「改訂版」 A5判/440ページ 現B 323</p>	<p>☆ 現代文B</p> <p>精選現代文B 「改訂版」 A5判/408ページ 現B 324</p>	<p>☆ 現代文B</p> <p>明解現代文B 「改訂版」 A5判/372ページ 現B 325</p>	
<p>☆ 古典B</p> <p>高等学校古典B 古文編「改訂版」 A5判/260ページ 古B 333</p>	<p>☆ 古典B</p> <p>高等学校古典B 漢文編「改訂版」 A5判/184ページ 古B 334</p>	<p>☆ 古典B</p> <p>精選古典B 「改訂版」 A5判/372ページ 古B 335</p>	
<p>現代文A</p> <p>B5判/144ページ 現A 303</p>	<p>古典A</p> <p>B5判/144ページ 古A 306</p>		

- 精選現代文B編集委員
- 中列正堯 兵庫教育大学名誉教授
 - 岩崎昇一 東京都立国際高等学校
 - 阿部公彦 東京大学
 - 大高知児 中央大学附属中学校・高等学校
 - 小島昇 千葉県立東葛飾高等学校
 - 齋藤 祐 中央大学杉並高等学校
 - 澤口哲哉 三重県立飯野高等学校
 - 山下大介 駒場東邦中学校・高等学校
 - 杉山志津恵 公文国際学園中等部・高等学校
 - 高野光男 東京都立産業技術高等専門学校
 - 戸塚 学 武蔵大学
 - 中村ともえ 静岡大学
 - 早川香世 東京都立深川高等学校
 - 宮岡良成 会津大学
 - 宮川健郎 武蔵野大学
 - 安田正典 愛知淑徳大学
 - 柳 宣宏 函嶺白百合学園中学校・高等学校

★三省堂教科書・教材サイト

<https://tb.sanseido.co.jp>

三省堂国語教科書

検索



三省堂

〒101-8371 東京都千代田区神田三崎町2-22-14 ☎03(3230)9411(編集)・9556(営業)
 ●大阪支社 ☎530-0002 大阪市北区曽根崎新地2-5-3 ☎06(6341)2177
 ●名古屋支社 ☎460-0002 名古屋市中区丸の内3-21-31 協和丸の内ビル2F ☎052(953)9211
 ●九州支社 ☎810-0012 福岡市中央区白金1-3-1 ☎092(531)1531・1532
 ●札幌営業所 ☎060-0042 札幌市中央区大通西15-2-1 ラスコム15ビル3F ☎011(616)8722



第一部

- 評論・随想は、さまざまな角度から問題意識をもち、主体的に考えることができる教材を精選しました。
- 短い評論文と記述式の課題とで構成された小教材「批評のまなざし」を特設しました。
- 小説は、人間の生き方や心情を豊かに表現し、人生や社会について思いを巡らせることができる教材を収録しました。
- 情報を的確に読み取ったり、自分の考えを発信したりする「表現と実用の文章」を巻末に設定しました。

*：本内容解説資料でご紹介するページ

一 随想

*地球上の「旅人」(ヤマザキマリ) **文化論** **新**

世界中を旅して回るといふ幼少時代からの夢をかなえた筆者が、「旅人」として生きる自由を語る。

二 小説(一)

最初のペンギン(茂木健一郎) **思考論**

山月記(中島敦)

月火水木金土日(川上弘美) **新**

ミロのヴィーナス(清岡卓行) **芸術論**

未来世代への責任(岩井克人) **環境論**

恐怖とは何か(岸田秀) **心理論**

優柔不断だった「わたし」が「籠おばさん」と出会い、成長していく姿を描いた物語。

三 評論(一)

未来世代への責任(岩井克人) **環境論**

四 詩歌

現代評論を読むために① **環境**

二十億光年の孤独(谷川俊太郎)

パンの話(吉原幸子)

永訣の朝(宮沢賢治)

木に花咲き——短歌十五首

五 評論(二)

メディアと歴史(若林幹夫) **メディア論**

木の葉と光(日高敏隆) **環境論**

コンクリートの時代(隈研吾) **文化論**

現代評論を読むために② **メディア・情報**

六 小説(二)

蠅(横光利一)

レキシントンの幽霊(村上春樹)

七 評論(三)

*スポーツとナシヨナリズム(阿部潔) **スポーツ文化論** **新**

戦争の〈不可能性〉(西谷修) **グローバルリズム論**

「である」ことと「する」こと(丸山眞男) **近代化論**

現代評論を読むために③ **近代**

人々が「健全」だと捉えがちなスポーツにおけるナシヨナリズムについて、特徴と危険性を分析する。

八 小説(三)

こころ(夏目漱石)

現代評論を読むために④ **近代**

「選べる社会」の難しさ(松田美佐) **メディア論**

空白の意味(原研哉) **芸術論**

批評のまなざし



一 評論(一)

わかりやすいはわかりにくい？(鷲田清一) **思考論**
「ブーボー」と「マンマ」の記号論(池上嘉彦) **言語論**

現代評論を読むために④ 言語

二 小説(一)

靴の話(大岡昇平)
靴(安部公房)

三 評論(二)

身体への疎外(黒崎政男) **身体論**
判断停止の快感(天西赤人) **社会論**
病と科学(柳澤桂子) **生命論**

現代評論を読むために⑤ 生命・身体

四 詩歌

樹下の二人(高村光太郎)
死んだ男(鮎川信夫)
小諸なる古城のほとり(島崎藤村)
渡り鳥——俳句十五句

五 評論(三)

「私」消え、止まらぬ連鎖(高村薫) **社会論**
南の貧困／北の貧困(見田宗介) **グローバリズム論**

六 小説(二)

虚ろなまなざし(岡真理) **グローバリズム論**
現代評論を読むために⑥ グローバリゼーション
舞姫(森鷗外)

七 評論(四)

飛行機で眠るのは難しい(小川洋子)
忘れられる権利(宮下紘) **情報文化論** **新**
日本文化の雑種性(加藤周二) **文化論**
無常ということ(小林秀雄) **文化論**

現代評論を読むために⑦ 芸術・文化

批評のまなざし

ネット上の発言の劣化について(内田樹) **メディア論**
*カタカナ語は享受すべきか(川口良・角田史幸) **言語論**

表現と実用の文章

*情報の読み方・扱い方
報道の文章
調査から発表へ
脚本の世界——創作

ネット内での個人情報めぐって新たに求められる権利について、各国の状況を報告し、課題を提示する。

付録

*読書の扉
広がる言葉の世界——名訳
近現代文学史年表

地球上の「旅人」

ヤマザキマリ

冒頭には、生き方やもの見方・考え方について述べた随想を配列。視野を広げ、探究心を喚起できるようにしました。

先日ヴェネチア方面に向かって車を運転していたら、高速道路の上をV字型に隊を組んだ渡り鳥の群れが通過していった。北欧の寒い地域からやってきたのだと思うが、それらのけなげな鳥たちを見ると、誰に教えてもらったわけでもない地球という天体のあり方と、そこに自らの生き方をしっかりと連動させているまっすぐな姿に、リスベクト¹とあこがれを覚えずにはいられない。

¹ リスベクト respect
(英語) 尊敬。

子どもの頃、私が育った北海道の街の空にも、やはり秋の終わりになるとシベリアから移動してきた渡り鳥たちが飛んでいた。雪が降り積もった真つ白な小高い丘の上を、真つ白な白鳥たちの群れが長い首を伸ばし、それぞれよく響く鳴き声を交わしながら、目的地へ向かって羽ばたいて行く場面に出くわした。子どもの私の視界を横切っていた白鳥たちは大きくて美しく、力強く、自由だった。

10

幼かった頃、母から、やはり彼女にとつての子どもの頃の愛読書だったという『ニルスのふしぎな旅』という本をもらったことがあった。そしてそれは私にとつてかけがえのない本となり、大人になった今でもたまに読み返している。わんぱくで捻くれたスウェーデンの少年ニルスがある日突然小さくなって、それまで散々いじめていた家畜たちから逆にいじめられる立場になる。そんななか、渡り鳥のガンたちとの一緒に旅が始まる……という冒険物語なのだが、ニルスが動物たちの言葉が判るようになってしまったことも、渡り鳥たちと一緒に旅ができることも、私にはとにかく羨ましくてたまらなかった。

5

² 『ニルスのふしぎな旅』スウェーデンの作家、セルマ・ラゲルレーヴ(一八五八年〜一九四〇年)の児童文学作品。

移動がしたい。一カ所にずっと暮らしているより、地球のいろんな地域の、さまざま自然や街や、人間や生き物たちと出会いたい。旅への願望は、そういったバックグラウンドのある環境のなかでますます増長し、私はしばしば自転車に乗って、自分の体力が許す限り遠くまで出かけるようになっていた。渡り鳥たちが辿り着く湖を指そうとしたこともあった。それは叶わなかったが、学校から行つてはいけないと指定されていた管区外の地域には、それほど家から離れてもいないのに、見慣れない美しい森や牧場が広がっており、それまで知らなかった光景を目の当たりにするという感動と興奮にすっかりとらわれた子どもになってしまったのだ。

15

問 「そういったバックグラウンドのある環境」とはどのようなものか。

*** 語句**
かけがえのない

やがてその向こう見ずな冒険心は、私という人間の礎となった。早くから離れてしまった日本に帰ってきてても、海外のさまざまな場所に暮らしていても、私にとってはどこもかしこも「アウェイ」という感覚が抜けないが、それが実は心地よい。渡り鳥にとつてもそうであるように、今や地球の全てが自分にとつての巨大な「ホーム」であり、羽こそ生えてはいないけど、自分が生きるこの天体の素晴らしさを知りたいという欲求に対して従順に、これからも移動性の気質が変わることはないだろうという気がしている。

私が幼少期を過ごした北海道の景色のほとんどは、視界の半分以上が空だ。とある編集者によると、北海道在住、または北海道と長く関わりがあった漫画家の作品に描かれる背景は、ほかの地域の作家のものと比べて圧倒的に空が広いのだという。確かにそうかもしれない。私も自分の、昭和の北海道を舞台にして描いた漫画を読んでみると、コマの半分以上は空という景色がいくらでも出てきている。都会であれば、高い建造物で見える範囲が狭められてしまう空が、一八〇度端から端まで満遍なく見渡せるのはこの土地の大きな特徴だし、それがあたりまえな空のあり方だと思つて暮らしていると、作品にもその捉え方どおりに反映されるのだろう。

かつてポルトガルに暮らしていた時、よく車でユーラシア大陸最西端に位置するロカ岬立つて、どこまでも広がる大海原を眺めていると、古の人々がその向こう岸にあるはずの、未知の世界に思いを馳せていた気持ちがいじみと伝わってくるような気がしはじめた。それはきつと、私も北海道の空を眺めながら、その大空間の向こうにある見ず知らずの世界へ、目一杯の妄想や想像力を膨らませて育つたからだろう。

大好きで読み続けてきた冒険小説、母が忙しい時に私と妹を預けていた修道会のドイツ人修道士たち、兼高かおるさんの世界紀行番組、母の演奏会で奏でられる数々の欧州の楽曲、十四歳の時のフランス・ドイツ一人旅。そして北海道の果てしない空。自分が生きている場所はこの広い世界の本当に限定的な範囲でしかなく、地球上での何万分の、いや何千万分の一くらいでしかないという意識で頭がいっぱいになる要因は、思い起こしてみればたくさんある。地球という惑星に、移動ができる生き物として誕生してしまったからには、そして、そういった未知の世界に冷めやらぬ好奇心が湧き続けるような環境に育つてしまったからには、見えている範囲のことだけに満足して生きていくのはどうしても私に

問 「移動性の気質」とはどのようなものか。



北海道の空

問 「その捉え方」とはどのような捉え方か。



ロカ岬からの眺め

3 兼高かおる 一九二八年。旅行ジャーナリスト。一九五九〜九〇年に放映された「兼高かおる世界の旅」をプロデュースし、自らレポートターも務めた。
問 「要因」にはどのようなものがあるか。

* 語句
向こう見ず
満遍なく
思いを馳せる
冷めやらぬ

は無理だった。

私は結局もう三十年の間、自分の生まれた国を離れて、地球上のさまざまな土地を転々とし、場合によってはそれらのいくつかの場所に長期間暮らしたりもしている。しかし、旅とは、移動先に居を構えるのとは意味が違う。時には、さまざまな事情によって旅の実施が叶わず、悶々とすることもある。しかし幸い、私は絵描きだから、物理的移動が叶わなくても、紙の上であればいくらでも無限の移動が許される。白い紙は北海道の果てしない空であり、ロカ岬から見渡す大西洋の大海原と同じくらいどこまでも果てしなく広い。その白い紙の上で、私はさまざまな場所に暮らすさまざまな人々を、妄想と想像の力を借りて、時には過去と現代を混ぜ合わせながら描き出すことで、終わることのない旅を続けているのだ。

10

地球という、本質的には辺境などどこにもない、水と土でできている惑星の上に、たくさんの多様な生き物たちと同様に、人間という動物である自分が生きているということの、いたってシンプルな確認。そして、旅人である限り、どこへ行っても、よそ者の傍観者*であり続ける緊張感のもたらす心地のよさ。帰属を問われない透明人間でいられることの気楽さ。

15

地面を踏みしめながら、紙の上にペンを走らせながら、移動していようが止まっていようが、結局私は何処^{どこ}で何をしていても、地球上の「旅人」という意識を持ち続けて毎日を生きている。

*語句
帰属



ヤマザキマリ 一九六七（昭和四二）年。漫画家。東京都の生まれ。作品に『ルミとマヤとその周辺』『テルマエ・ロマエ』、エッセイに『世界の果てでも漫画描き』、『国境のない生き方…私をつくった本と旅』などがある。本文は『地球で生きている ヤマザキマリ流人生論』（二〇一五）によった。

教材中の言葉や表現に着目し、表現力を高めるための課題や活動を設定しました。

学習の手引き

言葉と表現

一 ◆ 「私にとってはどこもかしこも『アウェイ』……、それが実は心地よい。」（10・2・3）とあるが、筆者はなぜそのように考えるのか、説明してみよう。

◆ 「目の当たり」（9・14）のように「目」の意味の「ま」が用いられる表現を調べてみよう。

二 ◆ 「地球上の『旅人』という意識を持ち続けて毎日を生きている」（13・2）とはどのように生きているのか。本文全体をとおしてまとめてみよう。

◆ この文章を読んで印象に残った表現を抜き出してみよう。

三 ◆ 筆者の「旅」に対する思いや考え方をめぐって話合ってみよう。

漢字

増長 9 礎 10 遮る 11 膨らむ 11 妄想 11
傍観 12

文章の内容を理解するための項目と、その理解を深め発展させる活動を、問いや言語活動の示唆の形で示しました。

評論は、教材として定評のある文章を機軸としながら、現代的话题に満ちた清新な文章を教材化。興味・関心や問題意識を喚起し、主体的に考えることができるようにしました。

スポーツとナショナルリズム

あべきよし
阿部潔

私たちは、日々の日常においてことさらに「日本人」や「日本の国」を意識することはない。それは、自分たちが「日本人である」ことや、自分が属する国が「日本国である」ことが、あまりにあたりまえであるがゆえに、とりたてて意識する必要もないからであろう。しかし、そうした私たちでも、きわめて意識的・自覚的に自分たちを「日本人」と感じ取り、日本人の共同体である「日本国」への同一化を感じる瞬間がある。それは、オリンピックやワールドカップなどスポーツ競技において自国の選手やチームを応援する時だ。四年ごとに開催されるオリンピックでは、日頃それほどスポーツ競技に関心をもたない人でも、日本代表選手や日本チームの活躍に注目し、熱い声援を送ることだろう。オリンピックの理念はスポーツを通じた世界の交流である。だがそこには同時に、各国のナショナルリズムのぶつかり合いも見えて取れる。日頃ナショナルリズムとは無縁だと思っている人で

「現代評論を読むために」にリンクしています。

1 ナショナルリズム
nationalism (英語) 民族や国家の統一・発展・独立を進めることを強調する思想。
ナショナルリズム
↓151ページ

も、オリンピックの熱狂のなかで「日本人／日本国」の活躍に一喜一憂している自分を見つけることは、けつして珍しくないだろう。

二〇〇二年に韓国と日本の共催で行われたサッカー・ワールドカップでは、日本チームの健闘もあって、若者を中心に多くの「サポーター」たちが日本各地で日の丸を打ち振り「ニッポン！」コールを連呼していた。たしかに、そこでの盛り上がりは多分にお祭り気分を感じさせるものであり、かつてのナショナルリズムとは様相を異にしている。しかしながら、異様なまでの盛り上がり、³ Jリーグの試合ではなく各国代表が競い合うワールドカップでのみ成立したことには、やはりなにかしかの意味がある。世界の強豪を相手に「日本代表」が大健闘したからこそ、人々は熱狂できたのである。つまり、日本人の活躍になにかしらナショナルな矜持(プライド)を感じられたからこそ、「にわかファン」を

2 サッカー・ワールドカップ FIFA (国際サッカー連盟) 主催の国際サッカー大会。
3 Jリーグ 日本プロサッカーリーグの略称。

巻き込むかたちでワールドカップ・フィーバーは吹き荒れたのだろう。

このようにオリンピックやワールドカップといった国際的なスポーツ競技の場には、スポーツとナショナルリズムとの密接な関係が見いだされる。そこにおいてスポーツは、人々のナショナルリズムへの欲求を喚起するとともに、集合的な熱狂のなかで発散させるメカニズムとして作用している。ナショナルリズムがスポーツにおいて重要な位置を占めていることが、あらためて確認される。

* 語句

一喜一憂 にわか

ここで注目すべきは、私たちの多くがスポーツにおけるナショナリズムに対して寛容な態度をとっている点である。そのことは、政治や文化の次元での自民族中心主義的なナショナリズムへの評価と比較すれば明らかだろう。国際政治における紛争では、時として剥き出しのナショナリズムが前面に押し出される。ここでは、互いに排他的なナショナリズム意識のぶつかり合いが、流血の事態に発展することが珍しくない。政治的紛争におけるナショナリズムの発露に対しては、多くの人々が危惧の念を抱くに違いない。二〇世紀の歴史を振り返る時、紛争や戦争におけるナショナリズムの爆発が数知れぬ惨禍を引き起こしてきた事実を考えれば、ナショナリズムに対する人々の拒否反応は至極当然であるといえる。

4 自民族中心主義 (英語) ethnocentrism) の訳語。自らの民族・人種の文化を基準に、他の文化を不当に評価する見方や態度のこと。

だが、政治的ナショナリズムへの警戒とは対照的に、スポーツを通じたナショナリズムの発現に対して、私たちはさしたる危惧を抱かない。それどころか、国を代表する選手たちの活躍が喚起する集団意識や連帯感情は、「健全なナショナリズム」として称賛されさえする。人々はスポーツを通じたナショナリズムの盛り上がりをも、素朴かつ無邪気に楽しんで見られるのだ。このように政治の場におけるのは異なるものとして、スポーツにおけるナショナリズムが受けとめられているのは、どうしてなのだろうか。

15

＊語句
危惧



10

ここで、スポーツにおけるナショナリズムの発露について、ノルベルト・エリアスが定式化した「文明化」の視点から考えてみよう。エリアスによれば、人類が文明化していく過程とは、感情的な高揚に支配されるがままに身体的・物理的な暴力が振るわれるのを防ぐべく、社会・文化的な慣習を発達させるプロセスにほかならない。マナー、儀礼、しきりたりといった社会的作法によって感情的な爆発をコントロールし、人々の行為や対人関係を野蛮でなく「文明的」なものにすることを近代社会は目指してきたのである。

この視点から見る時、近代スポーツの発展は、まさに「文明化」の過程にほかならない。さまざまなルールを作りあげ、一定の秩序のもとで身体的な競い合いを奨励する近代的なスポーツは、感情的な興奮に支配された剥き出しの暴力とは異なり、洗練された文明的な闘争＝競技を通じた闘争を可能にするのだ。

だとすれば、スポーツを介したナショナリズムもまた、文明化の産物として理解することができる。スポーツにおけるナショナリズムの発揮は、実際の戦争や紛争の場で生じる物理的な暴力を回避すべく、スポーツ競技というルールに基づいた上で、人々が抱く闘争への欲求を「文明的」に充たしている^みと解釈される。つまり、文明化という視点から見た時、自国チームを応援し代表選手の活躍に声援を送ることで成り立つ集合的な熱狂や興奮は、戦争における「野蛮な」暴力とは対照的に、より洗練された「文明的な」ナショナリ

ズムの形態にほかならないのである。

もしこのように、スポーツの場におけるナショナリズムの発現が「文明化」のプロセスとしてのみ理解できるならば、それを危惧する必要はないだろう。なぜならそれは、暴力とは無縁な「健全な」ナショナリズムとして容認され得るからだ。だが、スポーツとナショナリズムを取り巻く現実^まは、そうした楽観的な認識を許すほど単純なものではない。

たしかに、ある面でスポーツを介して発揮されるナショナリズムは、洗練された文明的なものかもしれない。戦争や紛争における暴力や殺し合いとは異なり、スポーツにおけるナショナリズムによって死者や怪我^{けが}が大量に発生することは、現在ではまず考えられないだろう。だが他方で、スポーツを通じたナショナリズムの高まりが、たとえ間接的であれ、現実世界での紛争や戦争を煽り^{おほ}激化させることは、事実としてあるように思われる。

スポーツという正当化された手段を用いて味方＝自分たち／敵＝奴ら^{やつ}とが峻別^{きんべつ}されることで、相手との対立感情が激化していく。その結果、社会における紛争がますます深刻化する。こうした悪循環が生じる危険性は、「スポーツによる友好」とのスローガンとは裏腹にさまざまな軋轢^{あつれき}や矛盾に満ちた国際政治のなかにスポーツが置かれている現実を考えれば、不可避^{*}なこともかもしれない。このように考えると、スポーツにおけるナショナリズ

5 ノルベルト・エリアス
Norbert Elias 一八九七年～一九九〇年。ドイツ人の社会学者。
● 身体 ↓ 252 ページ

問 「文明化」の過程とはどのようなことか。

* 語句

峻別 軋轢 不可避

ムの発現は「文明化」のプロセスであると同時に、「野蛮化」に結びつく危うさを常に持ち合わせていることが明らかになる。

現代スポーツに見いだされるナショナリズムの二重性は、スポーツそれ自体の特性というよりも、それが置かれた政治・文化的な文脈（コンテキスト）を反映したものだと思われる。つまり、自国と諸外国との関係を取り巻く現代世界の複雑な状況が、スポーツを介したナショナリズムの成立に深く影を落としているのだ。

そうだとすれば、スポーツとナショナリズムとの結びつきについて考えていく際に必要とされるのは、白黒をハッキリさせるような価値判断を下すこと（スポーツにナショナリズムを持ち込むべきではない／スポーツを通じたナショナリズムは健全である）ではなく、どのような政治・文化的な状況のもとでスポーツ・ナショナリズムがその姿を現しているのかを冷静かつ仔細に見極めていくことであろう。

* 語句

仔細



阿部 潔 一九六四（昭和三九）年。社会学者。愛知県の生まれ。専門はメディア論、カルチュラルスタディーズ。ナショナリズムの問題をメディアやコミュニケーションに視点を置き分析している。著書に『公共圏とコミュニケーション』、『彷徨えるナショナリズム』などがある。本文は『スポーツの魅力とメディアの誘惑』（二〇〇八）によった。

学習の手引き

- 一 ❖ 「このようにオリンピックや……見いだされる。」（123・124）とあるが、「スポーツとナショナリズムとの密接な関係」とはどういうことか。本文の具体例に基づいて説明してみよう。
- 二 ❖ 次の語句を筆者はどのようなものと述べているか。それぞれ整理してみよう。
 - ① 「政治的ナショナリズム」（124・10）
 - ② 「スポーツにおけるナショナリズム」（126・1）
- 三 ❖ スポーツにおけるナショナリズムが『野蛮化』に結びつく危うさを常に持ち合わせている（128・1）のはなぜか。その理由を説明してみよう。

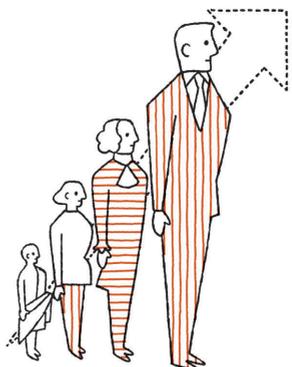
- 四 ❖ 筆者はスポーツとナショナリズムの結びつきについて、どのように考えるべきだと述べているか。またそれはなぜか。まとめてみよう。

言葉と表現

- ❖ 「文明化」「野蛮化」のように身のまわりにある「○○化」という言葉を探して、その意味や使われ方を調べてみよう。

漢字

- 一喜一憂 123 喚起 123 発露 124 惨禍 124 高揚 126
 奨励 126



現代評論の主要なテーマについて、評論教材とゆるやかに関連しながら論じたコラム。鍵となる語句の解説も付しています。

「近代」とは歴史の時代区分の一つで、西洋史では、古代、中世、近世に続く特定の歴史的时代を指します。具体的には、ルネサンス、宗教改革以降の時代、特に市民革命・産業革命以後の**資本主義**社会の時代を、日本史では一般に明治維新から第二次世界大戦終了までの時期を指し、それ以降を特に現代といいます。

西洋近代が成し遂げたもつとも大きな成果は、身分制社会から人々を解放したことでした。それまで土地や身分に縛りつけら

れていた人々が、封建的な因習・様式などから脱し、合理的・科学的・民主的な考えに基づいて生きる市民(citizen)になったのです。それゆえ近代社会は、政治的には**民主主義**、思想的には**個人主義**を基調とした、**人権**をもつ自由な諸個人によって構成される自由な社会となりました。

このような前提のもとに**市場経済**が全面化し、資本主義が発展します。近代は、人々に自由な法的主体としての輪郭を与え、るとともに、国境内の、自然環境を含む全ての物理的空間を、近代的な所有関係によって覆いつくしていったのです。この発想が国家の外部へと延長されるとき、所有関係が設定可能な空間としての**植民地**が生まれます。

さて、近代を象徴する**システム**としての資本主義は、**共産主義**や**社会主義**といった政治的な**イデオロギー**のことではありません。資本とは、増殖することを常態とした貨幣そのものであり、資本主義経済は、増

殖すること、運動し続けることを宿命づけられた、全世界を覆う貨幣の流動システムのことです。

また、近代の市場経済が、単なる商品経済と異なるのは、交換される財が生産要素(資本・土地・労働)にも拡大されている点にあります。労働力を時間単位で売買する賃労働の発想が一般化してはじめて、生産要素を自由に組み合わせ、利潤の拡大を図ることが可能となるからです。

近代における国家は、国民国家(nation state)と呼ばれています。これは、一つの国民(nation)によって構成された国家(state)という意味ですが、国民国家といつても、そこに帰属する**民族**は一つではありませんし、国家の領域内で話されている言語も一つとは限りません。そこで、国民国家の形成過程においてはじめて同一国内に生きる人間を同胞(我々)として捉えられるようになったことを踏まえて、国家を「想像の**共同体**」と呼ぶこともありま

す(ベネディクト・アンダーソン)。

二十世紀後半、近代の後の時代(ポストモダン)を考える思想運動が活発となりましたが、その主張は、近代が恣意的・歴史的な制度にすぎず、近代の価値観(自由や民主主義)を絶対的・普遍的に考えることはできない、というものでした。しかしポスト近代思想は、近代に代わるもうひとつの制度を提案するものではなく、近代の限界を近代の原理に即して示すものであり、それゆえ、われわれははまだ「近代」という歴史的時代の延長線上を生きているのだといえます。

語句の解説

●民主主義(democracy)

本来権力をもたない民衆(市民、人民)が、合意によって国家や社会の意思決定を行う仕組みのこと。だからこそ、人民が人民の名において制定した法に権威が認められ、個々人はその規則に従うことが求められる。

●個人主義(individualism)

これ以上分割できないもの(in-dividual)としての人間を「個人」として抽出し、個々の人間がもつ人格の独自性と自律性を重んじる立場。近代社会における個人は、民主主義の担い手としての責任主体、市場経済の担い手としての契約主体として想定されている。

●市場経済(market economy)

計画経済と異なり、個々の経済主体が自由に経済活動を行い、市場(マーケット)における需要と供給のバランスによって価格と取引数量が調節される仕組みのこと。

●植民地(colony)

植民地とは本来、ある国からの植民(移民)によって、開発や支配が進められる本国以外の地域を指す。十六世紀頃から、ヨーロッパ各国は侵略によって獲得した海外領土を保護国として従属させ(植民地主義)、自国(宗主国)の発展の基礎としてきたが、第二次世界大戦以降、アジアおよびアフリカにおける多くのヨーロッパ諸国の植民地が独立を果たした(脱植民地化)。しかし、旧植民地にはさまざまな課題が

残っており、その問題を把握するために始まった文化研究はポストコロニアリズム(post-colonialism)と呼ばれている。

●共産主義(communism)・社会主義(socialism)

共産主義は、資本主義のような財産の私有を否定し、すべての財産を共有化することで、平等な理想社会をつくらうという思想である。マルクス主義においては、生産手段の社会的所有が実現化され、人々が労働に応じて分配を受けることができるような共産主義の第一段階が社会主義と位置づけられている。

●民族(nation / ethnic group)

民族とは「我々○○人」という帰属意識を共有する集団のこと。国民(nation)の範囲と一致しないことが多く、複数の民族が共存する国家が多い。民族や国民という単位に基づいて同胞意識が発揚されるのが**ナショナリズム**(nationalism)である。

カタカナ語は享受すべきか

「ことばの乱れ」の一つの要因として「外来語の氾濫」が糾弾されるのも、もう定番になりました。近年の「外来語の氾濫」については、その量と速度が今までになく圧倒的だと感じる人が多いようで、日本語が外国語に侵食されるといふ危機感を口にする人や、日本語の国際化のためには喜ばしいことだとする人など、賛否両論、侃々諤々の議論があります。社会のあらゆる分野において、意味のよくわからない外国語が、日本語に置き換えられることもなく、カタカナ語となつて怒濤のように溢れている——そのような危惧を唱える声に押されてか、国立国語研究所は、わけのわからない外来語を減らそうと、二〇〇三年一月までに外来語の言い換え案一〇九語を提案しました。

【問い】 次のカタカナ語と漢語のどちらがわかりやすいですか。

- ① アイデンティティ 〓 独自性、自己認識
- ② アーカイブ 〓 保存記録・記録保存館
- ③ インキュベーション 〓 起業支援
- ④ グランドデザイン 〓 全体構想
- ⑤ オンデマンド 〓 注文対応
- ⑥ ノーマライゼーション 〓 等生化
- ⑦ インフォームド・コンセント 〓 納得診療、説明と同意
- ⑧ リアルタイム 〓 即時
- ⑨ ボーダーレス 〓 無境界、脱境界
- ⑩ マーケティング 〓 市場戦略

外来語、外国語はカタカナ表記されるため、最近では「カタカナ語」とか「カタカナことば」と呼ばれるようです。【問い】は、二〇〇三年に国立国語研究所が提案した、外来語の言い換え案のいくつかです。カタカナ語

と漢語のどちらがわかりやすかつたでしょうか。それは、一律には出ない答えだと思えます。一人ひとりの年齢や職業、興味や趣味に応じて、それぞれのことばに対する親密度が異なるからです。

『日本語よどこへ行く』の中で、増井元は一九九八年に出されたある辞書の第五版では一〇・二%ぐらいがカタカナ語で、新語として収録された一万語のうち三つに一つがカタカナ語だと述べています。同辞書のカタカナ語は、一九八三年の第三版で八・五%、一九九一年の第四版は九・二%だったそうですから、日本語の語彙の中でカタカナ語が増えていることは確かでしょう。さらに同書の中では井上史雄によって、「羞恥レス」「アン信じラブル」「オタクキー」のように、若者が英語の単語を増やすための技術を日本語に用いたことや、雑誌のタイトルだけでなく、社名にも英語的なつづりが用いられたり、テレビCMで商標名が外国語ふうの発音されたりといった最新の現象が指摘されています。新しくてかつこいというイメージとことば遊びの感覚で若者がカタカナ語に傾倒し、その若者をターゲットとしたファッション・AV機器などでカタカナ語を利用し、専

門性と知的イメージを求めて政治経済、医療・福祉の分野でもカタカナ語が用いられる……私たちの周りにはカタカナ語だらけ。そう感じるのも無理のない現状だとも言えます。

先に、「外来語の氾濫」は「ことばの乱れ」の定番」と書きましたが、「外来語の……」と言つたらすぐに「氾濫」ということばが浮かぶほど、「外来語」は「ことばの乱れ」の素として敵視され続けてきた感があります。「ことばの乱れ」が嘆かれるとき、必ずと言ってよいほど「外来語の氾濫」が嘆かれるのです。それは、「外来語」を広めるのは往々にして若者であるということと関係はないでしょうか。そして、それは「正しい日本語」「美しい日本語」、ひいては「純粋な日本語」を求める心と同調するからではないでしょうか。

『日本・日本語・日本人』の中で森本哲郎は、カタカナ語を使うことはことばをデジタル化することだとして、「カタカナ語を使うことで、言語のもっている歴史性を失う。一つの単語にも、そのことばにまつわる情緒なり価値観なりがぎつしり詰まっている。それを記号化すること、とたんにことばのもつ重みがなくなつてしま

う」と、「外来語の氾濫」を強く非難します。さらに、同書の中で「カタカナ語が氾濫する現在の日本の状況は、奈良朝から平安期の漢語輸入時代と少しも変わらない。

このような一知半解の外来語の洪水で、日本人の思考力はどのようなようになってしまおうのだろう。漢語と同じようにカタカナ語を和製英語にして日本語化する可能性は十分考えられるが——いや、すでにそうなりつつある——私

がいちばん憂えるのは、日本語の骨格そのものまでがくずれて、そのあげく変質した日本語が思考や感情を奇妙にゆがめてしまうのではないか、という点である」と述べ、そして、こう続けます。「日本人に課せられているのは、自分たちの精神を形づくっていることば、日本語の性格を、改めて反省し、自覚し、的確な、そして美しい言語へと高めていくこと、それ以外にない」。このようにして「外来語」の排斥は、「正しい日本語」「美しい日本語」の主張へとつながっていくのです。

このような、断固としたカタカナ語敵視論がある一方で、『平成十四年度国語に関する世論調査』（文化庁）では、「カタカナ語を交えて話したり書いたりしていることについてどう思うか」という質問に対する回答として、

「好ましくないと感じる」人三六・六%、「好ましいと感じる」人一六・二%、「別に何も感じない」人四五・一%という結果が出ています。「好ましい」人と「別に何も感じない」人を加えると六一・三%、これは「好ましくないと感じる人」の倍近い数値になり、カタカナ語に対して日本人はそれほど「敵意」を抱いていないことがわかって、ほっとした気持ちになります。

外来語弱者と言われるお年寄りや外国人に対する配慮さえ忘れなければ、カタカナ語の増殖にそれほど目くじらを立てることはないと思うのです。先の国立国語研究所の外来語の言い換え案を見てもわかるように、漢語とカタカナ語のどちらがわかりやすいなどということを一律に決めることは不可能なのです。そうだとしたら、一人ひとりが、わかりにくいほうの語彙を自分の中に新しく取り込んでいってはどうでしょう。人間一人が所有できる語彙量は限られているとも言われますが、バイリンガルやトリリンガルも決して珍しい時代ではありません。多様なことばの存在を知ることが、多様な他者を理解することにもつながるはず。「わからない」「わかりにくい」ものを拒否するのではなく、それを理解しようとする。

することこそが大切なのではないのでしょうか。過去において常にそうだったように、今もなお、同じ日本語の中にバイリンガルやトリリンガルとも比喩されるような他言語が包容されているのです。そのすばらしさをもっと積極的に享受してみてもいいでしょう。

(川口良・角田史幸「日本語はだれのものか」(二〇〇五)より)

*外来語の言い換え案 国立国語研究所による「外来語」言い換え提案は、第1回(二〇〇三年四月)、第2回(二〇〇三年一月)、第3回(二〇〇四年一月)、第4回(二〇〇六年三月)の四回に分けて発表され、語数は一七六語となった。提案内容は、国立国語研究所のホームページなどで参照することができる。

*増井元 一九四五(昭和二〇)年。国語辞典編集者。

*井上史雄 一九四二(昭和一七)年。社会言語学者。

*森本哲郎 一九二五(大正一四)年〜二〇一四(平成二六)年。評論家。

*バイリンガル bilingual 二つの言語を自由に使う能力がある人。

*トリリンガル trilingual 三か国語を自由に話す人。

「好ましくないと感じる」人三六・六%、「好ましいと感じる」人一六・二%、「別に何も感じない」人四五・一%という結果が出ています。「好ましい」人と「別に何も感じない」人を加えると六一・三%、これは「好ましくないと感じる人」の倍近い数値になり、カタカナ語に対して日本人はそれほど「敵意」を抱いていないことがわかって、ほっとした気持ちになります。

外来語弱者と言われるお年寄りや外国人に対する配慮さえ忘れなければ、カタカナ語の増殖にそれほど目くじらを立てることはないと思うのです。先の国立国語研究所の外来語の言い換え案を見てもわかるように、漢語とカタカナ語のどちらがわかりやすいなどということを一律に決めることは不可能なのです。そうだとしたら、一人ひとりが、わかりにくいほうの語彙を自分の中に新しく取り込んでいってはどうでしょう。人間一人が所有できる語彙量は限られているとも言われますが、バイリンガルやトリリンガルも決して珍しい時代ではありません。多様なことばの存在を知ることが、多様な他者を理解することにもつながるはずです。「わからない」「わかりにくい」ものを拒否するのではなく、それを理解しようとする。

課題1 本文の内容を三〇〇字以内でまとめてみよう。

課題2 「外来語の氾濫」(372上・1)について、あなたはどのように考えるか。八〇〇字以内で論じてみよう。

筆者紹介

内田樹 一九五〇(昭和二五)年。思想家。東京都の生まれ。フランス思想や映画の他、さまざまな現代的事象について発信している。著書に『ためらいの倫理学』『寝ながら学べる構造主義』などがある。

川口良 一九五七(昭和三二)年。日本語教師。長崎県の生まれ。日本語教育の立場から日本語を分析する。共著に『国語という呪縛』、共訳書にJ・ハスラム『誠実という悪徳』などがある。

角田史幸 一九五〇(昭和二五)年。哲学者。東京都の生まれ。経済社会学、現代思想を専門とする。共著に『教育の臨界―教育的理性批判』『国語という呪縛』、訳書にM・リュベル『マルクスへ帰れ』などがある。

情報の読み方・扱い方

資料などから情報を的確に読み取ったり、自分の考えを発信したりする力をつける表現教材。実用性に富んだ言語活動を設定しました。小論文やAO入試対策にも役立ちます。

報告文や解説文では、アンケート調査や統計などの数値データをグラフや表などに示した視覚資料が用いられることが多い。こうした情報は、日常生活においてさまざまなメディアを通して私たちがよく目にするものである。高度情報化社会といわれる現代では、情報そのものが正しいかどうかを判断したり、情報を整理し、的確に把握したりする力、過剰な情報の中から必要な情報を見つけ出したり、効果的に活用したりする力が必要とされている。そこでここでは、情報の読み方・扱い方について考えることにする。下段に掲げた図「日本の人口ピラミッド（二〇一三年）」は、日本の人口構成を示したものである。このグラフをもとに「少子高齢社会に移行した社会的要因を探り、さらに少子高齢社会の問題点を考える」という課題に取り組んでみよう。

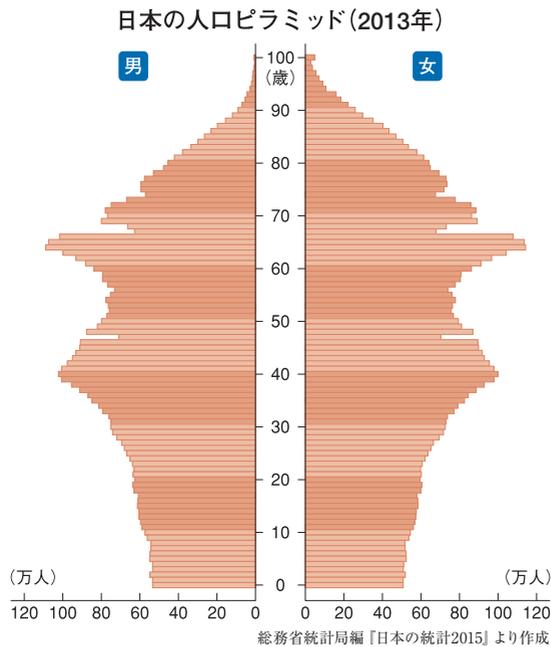
1 資料を読む際には、資料を読む目的を明確にし、資料のもとになった調査の目的、実施時期、対象及び回収結果、調査を行ったのはどのような団体なのかを確認することが必要である。 **確認**

2 次に、資料をおおまかに把握し、資料から読み取れる情報を列挙してみる。続いて、列挙した情報の中で、著しい特徴や大きな傾向を示しているのはどのような点かを考える。ここでは一つの資料を扱うだけだが、もし複数の資料を扱う場合は、それぞれの資料から読み取れる情報の関連性にも注目する。 **分析**

- 1** おおまかな把握
—— 略 ——
- 2** 著しい特徴、大きな傾向
- ① 人口が最も多いのは六四歳～六六歳である。
 - ② 次に人口が多いのは三九歳～四二歳あたりである。
 - ③ 四〇歳以下では、年齢が下がるにつれてしだいに減少する傾向にある。

3 資料の特徴の背景、資料の特徴が示す問題点を探り、その問題に関する自分の意見をまとめる。 **考察**

資料は、国勢調査（全国の全世帯を対象）による人口を基にした二〇一三年時点での人口推計をグラフにしたものである。

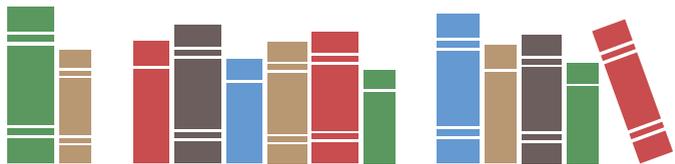


- 1** 特徴の背景
- ① 終戦前後の出生減と戦後復興期に出生率が急増した第一次ベビーブームによる人口増加。
 - ② 高度経済成長長期に出生率が急増した第二次ベビーブームによる人口増加。
 - ③ 未婚・非婚化という結婚をめぐる変化、核家族化・都市化による家庭の養育力の低下、若年失業者の増大といった社会経済状況などを原因とする出生率低下による少子化。
- 2** 問題点
- 少子高齢化の進行は、医療や年金等の社会保障制度を根底から揺さぶりかねないし、地域社会の活力の低下などにもつながっている。

- 3** 問題点に対する意見
—— 略 ——

課題1 3の「3 問題点に対する意見」を四〇〇字程度でまとめてみよう。その際、最も重要な点は何かを考えながら、将来の展望や対策などを含めて、自分の意見をまとめるようにしよう。

◆読書の扉



世界中を旅する作家として知られる著者が、北極からアフリカまで、これまでの人生で訪れた土地の思い出を写真とともに披露する。



世界どこでもずんがずんが旅
ずんが旅
椎名誠

海外旅行も珍しかった一九五九年から三十一年にわたり百五十の国を取材した著者が、旅の魅力や自らの人生観などを語り尽くす。



わたくしが旅から学んだこと
兼高かおる

現代日本にタイムスリップした古代ローマの浴場設計技師が、未来での体験を古代ローマで活用する姿を描く。著者の代表作。



テルマエ・ロマエ
ヤマザキマリ

ヤマザキマリ「地球上の『旅人』」(教科書8ページ)から

390

アートディレクターがすすめる、クリエイティブシンキング(「11創造的な考え方」を、写真や図解も含め、具体的に解説する。



佐藤可士和のクリエイティブシンキング
イティブシンキング
佐藤可士和

ライト兄弟の苦しみは、発明だけではなかった。蒸気機関から半導体まで、古今東西、発明家たちがたどった特許取得までの苦闘。



世界を変えた発明と特許
石井正

「夢」とは。「無意識」とは。脳科学者と心理学者の対話は、やがて人間関係や生き方に及ぶ。科学が身近に感じられる対話集。



「こころと脳の対話」
茂木健一郎
河合隼雄

茂木健一郎「最初のペンギン」(教科書14ページ)から

六朝や唐代の志怪・伝奇小説の流れをくむ短編小説集。幽鬼や神、不思議な生き物たちの巻起こす事件を描く。上下巻で92編収録。



聊齋志異(上)(下)
蒲松齡
立間祥介編訳

朝、目覚めると、「自分が途方もない虫に変わっているのに気がついた」——心は人間のまま、姿だけ変わってしまった男の心理を描く。



変身
フランツ・カフカ
池内紀訳

漢軍を率いて征服に向かったものの敗退し、匈奴の捕虜となった李陵。中国の古典に材をとった表題作の他、「弟子」「名人伝」を収録。



李陵・山月記
中島敦

中島敦「山月記」(教科書20ページ)から

課題2 現在、地球温暖化などの気候変動が世界的な問題になっている。その有力な原因の一つとして、二酸化炭素の排出が考えられている。次の資料(表1、図1・2)を活用し、以下の留意点を参考にしながら、八〇〇字程度のレポートにまとめてみよう。

【留意点】

① レポートの構想を練る

資料から読み取れること(二酸化炭素排出量の現状や予測、その原因、影響)を書くだけでなく、テーマに関する日常の体験や排出を抑える対策についても述べてみよう。身近なところからできること、国として、世界全体として取り組まなければならないこと、さまざまなレベルの対策が考えられる。

② レポートの主題をしぼる

資料から読み取れることの全てを書くことはできない。資料を活用しながら、例えば、「わが家の温暖化対策」「温暖化防止と科学技術」「温暖化防止に果たす日本の役割」というように、焦点をしぼって記述しよう。その際に、重要なのは「自分の問題」として書くことである。

また、さまざまな国の立場になり、長期的な視野をもつて考えるようにすれば、より公正で説得力のあるレポート

20

15

10

5

表1 地球温暖化の影響の現状

指標	観測された変化
世界平均気温	<ul style="list-style-type: none"> 2005年までの100年間に世界の平均気温が0.74(0.56~0.92)℃上昇 最近50年間の昇温の長期傾向は過去100年間のほぼ2倍 最近12年(1995年~2006年)のうち1996年を除く11年の世界の地上気温は1850年以降で最も温暖な12年の中に入る 北極の平均気温は過去100年間で世界平均の上昇率のほとんど2倍の速さで上昇
平均海面水位	<ul style="list-style-type: none"> 20世紀を通じた海面水位上昇量は0.17m 1993年~2003年の上昇率は年当たり3.1mm
暑い日及び熱波	発生頻度が増加
寒い日、寒い夜及び霜が降りる日	発生頻度が減少
大雨現象	発生頻度が増加
干ばつ	1970年代以降、特に熱帯地域や亜熱帯地域で干ばつの地域が拡大。激しさと期間が増加。
氷河、積雪面積	南北両半球において、山岳氷河と積雪面積は平均すると縮小

資料：IPCC(気候変動に関する政府間パネル)『第4次評価報告書』より環境省作成

トになるはずである。

③ 情報を活用する。

事前にインターネットや図書館を利用して「COP21」「パリ協定」「京都議定書」「気候変動問題」「地球温暖化」などについて調べ、そこから得られた情報も活用しよう。

5



デジタル教材

指導者用デジタルテキスト

はじめに

●教科書の内容を最大限に活用すること

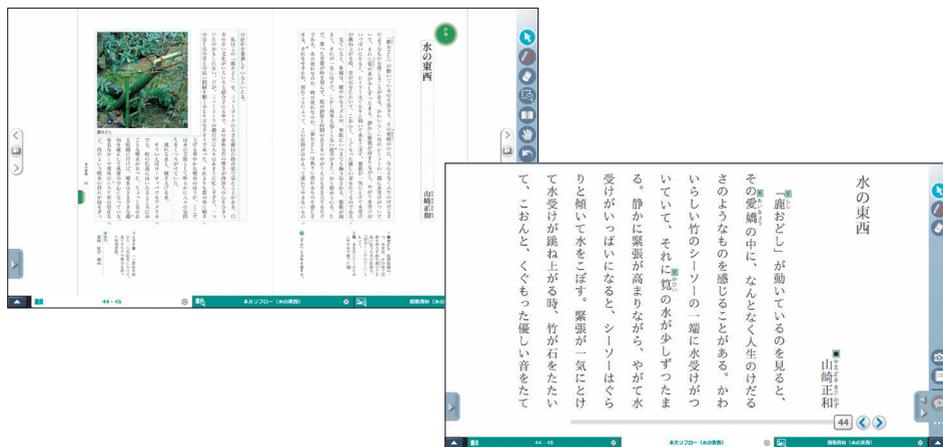
デジタルテキストでは、教科書本文の拡大提示、付録や図版資料のインデックスおよびその拡大提示など、教科書の内容を提示用の素材として、最大限に活用することをコンセプトに制作いたしました。

●CoNETSビューア

平成29年度版からは教科書会社14社が参画して開発した共通プラットフォームCoNETSビューアでのご利用になります。

▶ CoNETSについて (<http://www.conets.jp/>)

CoNETSビューアでは、先生ごとにユーザーを登録することで、書き込み情報や履歴などをそれぞれに保有することができます。



※画面サンプルはすべて「精選国語総合」となっております。

指導者用デジタルテキスト (校内フリーライセンス)※1			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版	教科書利用期間一括※2	40,000円+税	DVD-ROM / ダウンロード
Windows版 単年度ライセンス	ご購入年度末まで	18,000円+税	DVD-ROM / ダウンロード
学習者用デジタルテキスト (1端末1ライセンス)※3,4			
OS	ライセンス期間	価格	インストール方法
Windows版 / iOS版	教科書利用期間一括※2	1,500円+税	ダウンロード

※1 校内のすべての端末にインストール可能です。なお、価格は1学年の価格です。

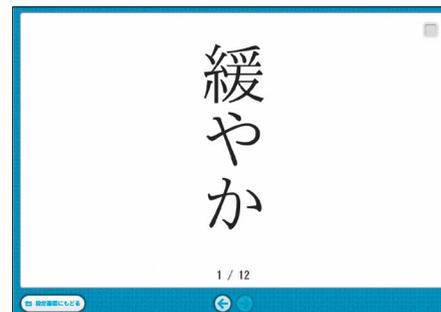
※2 収録されている検定教科書の使用期間中はご利用いただけます。

※3 教師用デジタルテキスト購入校のみ購入できます。

※4 インストールする端末(1端末)ごとにライセンス料金をお支払いいただけます。

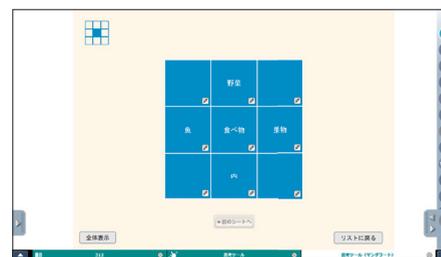
指導者用 豊富なコンテンツで授業をサポート

■漢字の読みフラッシュカード



教材で扱う漢字の読みをフラッシュカードで提示しながら確認・学習できます。

■思考ツール



デジタルテキストオリジナルのコンテンツも多数収録しています。

●動作環境 指導者用 (2020年1月現在)

Windows版	
OS	Windows 8.1 / Windows 10 (32bit / 64bit 対応)※1
ブラウザ	Internet Explorer 11
CPU	Intel Core i3以上推奨
メモリ	4GB以上
空き容量	4GB以上(ビューア1GB+教材3GB)
その他	.NET Framework 4.5.1以降

※ Microsoft, Internet Explorerおよび Windowsは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

※1 Windows RTには対応していません。

動作環境や導入にあたっての条件等は、CoNETSのWebサイトにて最新の情報をご確認ください。 <http://www.conets.jp/>

学習者用デジタルテキストについての特徴や動作環境など、その他詳細な情報は三省堂教科書・教材サイトをご覧ください。
●体験版DVD-ROMのお申し込みはeメールにてご連絡ください。
eメールアドレス: info-tbdt@sanseido-publ.co.jp

■コンテンツ一覧



「フラッシュカード」「図版資料」「人物相関図」など、さまざまなコンテンツを収録。

■オンライン辞書



授業での提示に特化した指導者用の辞書サイトをデジタルテキストのリンクからご利用いただけます。

★三省堂教科書・教材サイト
<https://tb.sanseido.co.jp>

